

KINGCA week 2024 体験記

名古屋大学医学部附属病院 消化器・腫瘍外科 杉田静紀

2024年9月23日～28日に日本胃癌学会より参加助成をいただき、KINGCA week 2024(前半は Seoul National University Hospital (SNUH)での Master Class、後半3日間は韓国胃癌学会学術集会)に参加をしました。

日本でも一時期報道されていましたが、2024年初めに起こったレジデントや医学生のストライキの影響はSNUHでも続いており、施設見学時もレジデントのほとんどが退職してしまっていました。そのため年間800例ほどある胃癌手術も今年は約半分程度になる見込みとのことでしたが、3日間で合計7件(LDG2件、RDG2件、RPG1件、RPPG1件、腹腔鏡下食道空腸吻合1件)の手術見学をすることができました。

見学期間中、Master Classとして私の他に日本より1名とイタリアより1名、またドイツから留学中の medical student 2名の他、イタリア、アメリカから3名の Dr.が手術見学を行っており、さらにフィリピンから半年間 International fellow として留学中の Dr.が手術に助手として参加するなど、韓国のハイボリュームセンターの国際的な注目度の高さを感じました。3日間の間に SNUH のフェローを含め多くの Dr.と話す機会もあり、韓国やその他の国の教育システム、各国の手術や薬物療法の現状を話し合っ知ることができたこともとても良い機会でした。

日中の手術見学を基本とし、SNUH では期間中のほぼ毎日、朝早くや夕方に様々なカンファレンスが開催され、参加する機会がありました。

手術はスタッフが執刀し、フェローや院内にたった一人ストライキからカムバックした現在外科ローテ中レジデントが助手を務め、スコピストは常に Nurse practitioner がおこなっていました。全ての手術において臨床試験のエビデンスに沿ってきっちりと術式を決定し、効率よく、スムーズに行っている印象を受けました。数年前までは開腹手術が多かったそうですが、KLASS02 試験の結果が出てからはほとんどが低侵襲手術で行われているとのことでした。またロボット手術は腹腔鏡手術に比べ多額の費用がかかるため、患者さんが希望した場合のみ行っており、全体の 20～30%程度とのことでした。術式は DG50～60%、PPG20%、TG 15%、PG 10%以下と KLASS04 試験の結果を受けて PPG が比較的多いことと、手術棟のフロアー中心部に迅速診断を行う部屋が存在し、各手術室で検体が取れると即座に検体をそこに運んで常駐病理診断医が全例断端迅速診断を行っていること(見学時で1日平均40件)などが特徴的でした。

2日目夕方には MD Anderson Cancer Center の Prof. Badgwell を迎えての Research meeting が行われ、Seoul National University で行われている腹膜播種をもつ胃癌患者の臨床試験に関してディスカッションが行われました。その道のトップランナーの先生を海外から招いて、現在行っている研究に関するアドバイスをもらえる環境は非常に贅沢で

とても羨ましいものだと感じました。

4日目朝の Research meeting では、研究員、フェロー、MasterClass 参加者が自己紹介や現在行っている研究に関してショートプレゼンテーションを行いました。私は2日目に Prof. Yang より、Prof. Yang が執刀した LDG の 6 番リンパ節郭清部分のビデオ編集をタスクとして与えられていたため、自己紹介ののちに編集したビデオの解説を行いました。SNUH の Dr. は臨床、基礎問わず常に約 5 個程度の研究テーマを並行して進めているようで、Research activity の高さに驚きました。Prof. Yang が「Small question を一つずつ解決していけば、そのうち大きな結果を得ることができる」とおっしゃっていたことがとても印象に残っています。また、ほぼ全てのカンファレンスは議論が英語でなされており、国際的な医師を教育しようとする意識の高さを感じました。

2 日目、3 日目の夜には Welcome party 等を開催頂き、Prof.、フェロー、他の海外の Dr. らと親交を深めることも出来ました。

学会では” The evaluation of the impact of sarcopenia on activities of daily living and cognitive function in patients undergoing gastric cancer surgery”というテーマでポスター発表を行いました。また、MDT Session や Conversion Therapy のコンセンサスミーティングでは、各国で胃癌の治療方針にかなりばらつきがあることを改めて認識し、その中でのディスカッションはとても興味深いものでした。

今回、非常に充実した 6 日間を過ごすことができ、モチベーションを高める良いきっかけとなりました。この素晴らしい研修の機会を与えていただいた日本胃癌学会理事長の掛地吉弘先生、国際委員会委員長の竹内裕也先生をはじめとした委員の皆様、また施設見学中に温かく迎えてくださった Prof. Yang、Prof. Lee をはじめとした SNUH の先生方に厚く御礼申し上げます。今後も日本胃癌学会から KINGCA week への派遣が継続し、多くの若手の先生が世界へ目を向けるきっかけになることを願っております。

手術室で Prof. Yang、他の見学者と



迅速病理診断室の見学



Prof. Badgwell を迎えての Research meeting



Research meeting(4日目朝)のビデオ発表



Welcome(看護師さんの Farewell) party



Prof. Yang、見学者、フェロー、etc.の dinner



学会会場で Prof. Yang と

